

2009年度 CIESF活動報告



すべての始まりは教育であり、人の育成こそがこの国を救うことになると決心しました。

世界の中でも有数のODAの享受国であるカンボジアは、学校をはじめとする建物や施設は近年多く建てられています。

しかし、そこで行われている教育は基礎部分が抜け落ち、基礎のないまま闇雲に教科書を丸暗記するようなものでした。

その建物の中の現状は……。先生がいないこともあります。

先生の多くは副業のため、授業を休んでしまう、コンパス・分度器を使えない、理科の実験ができない、ということが現実にあります。

こういった現状を抱えたまま、カンボジアの学校は存在しています。

子供たちがしっかりとした教育を受けること、さらにその教育を施す先生自身が教育を受けること。

このことが今求められています。私たちはこの課題に対し支援を行う団体として活動しています。

一般財団法人 カンボジア国際教育支援基金(CIESF)

〒104-0062 東京都港区南青山3-17-1 フロムファイブ302

Tel:03-6439-5990 Fax:03-6439-5991 URL: <http://www.ciesf.org>

2009年度 CIESFの主な活動

2009年4月・8月・11月 現地説明会を開催(東京)

2009年6月 第1回カンボジアへのスタディーツアー

2009年7月・8月・9月 カンボジアで実践経営学講座(COBLAS)のパイロットコース実施

2009年7月 カンボジアプノンペンでシンポジウムを開催

2009年10月 国境なき教師団 派遣教師第1団 カンボジアへ

2009年12月 第2回カンボジアへのスタディーツアー

2010年3月 国境なき教師団 派遣教師第2団 カンボジアへ

CIESFの理念

真の愛情と情熱をもった世界レベルの教育者の育成
利他の心と国際的視野をもった高度人材の育成

私たちは、教育支援の「本質」について考えながら活動しています。



◆2009年4月・8月・11月 東京で現地説明会を開催しました。



元海外青年協力隊員の先生にご協力いただき、カンボジアの現地説明会を開催しました。

国境なき教師団の教師派遣にご興味のある教師経験者の方々にご参加いただき、熱心に聞いていただきました。
3～4カ月ごとの不定期な開催ではありますが、この説明会は、今後も引き続き行ってまいります。



◆2009年6月 第1回カンボジアへのスタディーツアーを行いました。

2009年6月8日から16日まで、第1回カンボジアへのスタディーツアーを行い、3名の方が参加されました。国境なき教師団としてカンボジアへの赴任を考えている教師経験者の方に、赴任前に少しでも現地の暮らしや文化の違いを知っていただくとう企画したツアーです。CIESFの現地スタッフが同行しました。プノンベンとプレイベン州では、市場や博物館などの観光のほか、小学校・中学校教員養成所(PTTC/RTTC)の見学も行いました。プノンベンからプレイベン州、コンボンチャム、シェムリアップと、自動車でカンボジアを縦断し、観光ツアーとは違う角度からカンボジアを見ることができるツアーとなりました。



↑ プノンベンの教員養成所では、青年海外協力隊員の派遣教師の方に校内を案内していただきました。



← プノンベンからプレイベンへ行く途中、車ごとフェリーでメコン川を渡りました。

プレイベンの教員養成所では、学生たちの寮も見学できました。 →



↑ 最後に訪問したシェムリアップでは、スクールにいました。これもカンボジアらしい体験でした。

◆2009年7月、8月、9月

実践経営学講座(COBLAS)のパイロットコースを実施しました。



早稲田大学の大江教授のご協力のもと、カンボジアの3大学(メコン大学、プッティサストラ大学、王立経営大学)で、実践経営学講座(COBLAS)のパイロットコースを実施しました。7月、8月、9月の3ヶ月間で、カンボジアの大学教授と学生が、実践的な経営学について学びました。CIESFはCOBLASを支援しています。

※COBLAS=Consulting Based Learning for ASEAN SMEs



3大学からの参加者は、それぞれが真剣に学んでいました。

◆2009年7月4日

カンボジア プノンペンでシンポジウムを開催しました。



シンポジウム 2009

Symposium in Phnom Penh.

日メコン交流年事業認定

『明日のカンボジアを創ろう』

主催：一般財団法人 カンボジア国際教育支援基金

総合司会：ラタナック・ケアング氏 (Cambodian Television Network: CTN)

2009年は、日本・メコン交流年！

2009年7月4日(土)にカンボジアの首都プノンペンにて、CIESF主催のシンポジウムを開催いたしました。

「明日のカンボジアを創ろう」と題し、現地の大学生や以前日本に留学していた方400人が参加。彼ら自身が「今後よりいっそうカンボジアの経済を発展させるには、教育はどうあるべきか」という命題を考えました。イベントは大盛況のうちに幕を閉じました。



「明日のカンボジアを創ろう」 400人が起業シンポジウムに参加

カンボジアで教育支援活動をしている「カンボジア国際教育支援基金 (CIESF)」が7月4日、プノンペンで起業をテーマにしたシンポジウムを開催した。日メコン交流年事業認定のイベントで、参加者は学生ら約400人で賑わった。

シンポジウムでは、日本やタイの起業家、日本に留学経験のあるカンボジアの起業家らがそれぞれが経験談を話し、「先陣を切る」の体験談に、学生からは熱心に質問が浴び、会場が熱気に包まれた。また、CIESFが、カンボジアの大学と提携することも取り組み「実践経営学講座」についても説明があった。議題に参加する学生たちは、起業や経済についての実践的な知識を得につけ、卒業後に起業計画も立てる。優秀な計画には基金提供の可能性もあるという。



約400人が参加した、カンボジアの学生らによる「明日のカンボジアを創ろう」シンポジウムで、約400名が参加した。

400 students join the symposium for future entrepreneurs

On July 4, the Cambodia International Education Support Foundation (CIESF), a Japanese non-profit organization, held a symposium on entrepreneurship. The talk in Phnom Penh was filled with over 400 university students who were interested in the topic. During the symposium, the entrepreneurs from Japan, Thailand and Cambodia spoke of their experiences.

CIESF also explained to the students that they would start a new educational course for future entrepreneurs in three universities in Cambodia. At the end of the project, the students of the course will be required to compile a plan for a new business. If the idea is good, it may get funding from the organization. The students seemed to be very much interested in the project and asked...

シンポジウムの様子は、NHK、日本経済新聞、カンボジアのフリーペーパー「ニョニウム」等、国内外の各種メディアで紹介されました。



Cambodia International Education Support Foundation

シーセフ

◆2009年10月 国境なき教師団 派遣教師第1団 カンボジアへ。



勤務にあたっては、カンボジア人の通訳が選任でついていますので、言葉の心配はありません。

国境なき教師団の派遣教師第1団として、1名の先生が、プノンペンにある中学校教員養成所(RTTC)に赴任されました。

先生は、教員養成所の教員(これから教員になる人を育てる立場)に、理科の教え方を指導しています。実験道具の作り方を教えたり、現地の教育に適したカリキュラムを一緒に作成しています。

教育全体を一度に変えることはできません。しかし、未来の教員を指導することは大きなすそ野を持ち、とても価値ある支援だと、私たちは考えています。



◆2009年12月 第2回カンボジアへのスタディーツアーを行いました。

2009年11月30日から12月8日まで、第2回カンボジアへのスタディーツアーを行い、7名の方が参加されました。プノンペンとプレイベン州では、市場や博物館などの観光のほか、小学校・中学校教員養成所(PTTC/RTTC)の見学も行いました。実際に活躍している派遣教師や、青年海外協力隊の方々に現地での仕事や生活の様子を、直接聞くことができました。これからカンボジアに赴任しようと考えていた派遣教師の方々にとって、現地での生活をイメージする、とてもいい機会でした。シエムリアップでは、アンコール遺跡群を観光し、クメール王朝時代のカンボジアの歴史を垣間見ました。現地の暮らしと観光の両方を満喫できるツアーとなりました。



↑ プレイベンの教員養成所では、青年海外協力隊員の派遣教師の方と共に、授業を見学しました。

カンボジア人の台所である市場でひと休み。ここに来れば衣・食・住の生活に必要なものが何でもそろいます。→



プノンペンでは、CIESF現地代表、現地事務所スタッフとスタディーツアーの参加者で、食事会を開催しました。↓



↑ シエムリアップでは、アンコール遺跡群を観光。

←カンボジア人家族のお宅にお邪魔して、一緒に夕食を楽しむという貴重な体験もできました。

◆2010年3月 国境なき教師団 派遣教師第2団 カンボジアへ。



測りの目盛の読み方も、教員養成所では指導しています。カンボジアでは日常で体重を測るということがありません。



国境なき教師団の派遣教師第2団として、3名の教師経験者が、プレイベン州にある小学校・中学校教員養成所(PTTC/RTTC)に赴任されました。

それぞれ教員養成所で、理科と数学の教員の指導にあたっています。派遣教師の数と活動範囲はこれから拡大していきます。カンボジアでの教育支援の輪も着実に広がっています。

「すべての始まりは教育であり、人の育成こそがこの国を救うことになる」
国境なき教師団は、この考えのもと、日々活動しています。



◆CIESFの活動が様々なメディアで紹介されました。

「カンボジアと私」 篠原勝弘・前大使の講演から
Cambodia and I Ambassador Katsuhiko Shinohara

篠原大使は、カンボジアの歴史や文化、そして教育の現状について詳しくお話しくださいました。特に、カンボジアの教育制度や、子どもたちの生活状況について、興味深いお話がありました。

カンボジアの教育制度は、日本の教育制度と比べて、かなり遅れていると聞きました。特に、基礎教育の不足が大きな課題とされています。また、カンボジアの子どもたちは、貧困や自然災害の影響を受けやすい状況に置かれています。

篠原大使は、カンボジアの教育を支援するために、CIESFのような民間団体の役割が非常に重要であると強調されました。特に、基礎教育の充実や、子どもたちの生活環境の改善が、カンボジアの未来を明るくするために不可欠であると述べられました。

フォーバル大久保会長らが設置呼びかけ
カンボジア国際教育支援基金(CIESF)

フォーバル大久保会長が設置呼びかけ、CIESFは、カンボジアの教育支援を目的として設立された基金です。この基金は、カンボジアの教育制度の改善や、子どもたちの生活環境の改善に貢献することを目的としています。

CIESFの活動は、カンボジアの教育制度の改善や、子どもたちの生活環境の改善に貢献することを目的としています。特に、基礎教育の充実や、子どもたちの生活環境の改善が、カンボジアの未来を明るくするために不可欠であると述べられました。

学校講話と校長学の専門誌
Principal 月刊プリンシパル

この専門誌は、学校講話や校長学の分野で重要な情報を提供しています。読者は、最新の教育動向や、校長としての実践的な知識を学ぶことができます。

2010.4 月号の特集は、「心はずむ入學式」です。これは、学校生活の始まりである入学式について、校長としての視点から詳しく解説されています。

CIESF ホームページ

このホームページでは、CIESFの最新の活動や、カンボジアの教育支援に関する情報を提供しています。読者は、最新のニュースや、現地レポートなどの情報を随時更新しています。

2010年4月1日更新のニュースには、「カンボジアの教育制度の改善」に関する記事が掲載されています。これは、カンボジアの教育制度の現状や、改善の必要性について詳しく解説されています。

CIESFのホームページでは、ニュース、現地レポート等の情報を随時更新しています。ぜひご覧ください。
<http://www.ciesf.org>
※検索の際は、URLを直接入力、もしくは「CIESF/シーセフ」でクリック！

カンボジアの日本人向けフリーペーパー「ニコニコム」

プライダル産業新聞(2009.9.1版) SEPTEMBER1(第720号)

学校講話と校長学の専門誌「月刊プリンシパル」(学事出版) 2010年4月から国境なき教師団に関する連載がスタートしました。



◆多くの企業様とCIESFが支援企画をコラボレートしました。



株式会社伊藤園様、株式会社ホープコーポレーション様、株式会社八洋様、株式会社ジャパンビバレッジ様より、寄付機能付きの自動販売機の設置を行うことで、CIESFの活動をご理解していただける企業様を増やし、寄付を集めてくださいました。



CIESFのロゴ入りの自動販売機で飲料が購入されることで、1本につき2円～10円の寄付をいただきました。

PRESIDENT STAGE
経営者のためのビジネスマッチングサイト

株式会社バックステージ様は、「ワンコインPR」として、運営サイト「プレジデントステージ」の取材掲載費用から寄付を行っていただきました。



カンボジアに笑顔を！



株式会社ナック様、株式会社マリアージュ様、東日本エア・ウォーター・エネルギー株式会社様は、寄付機能付きのウォーターサーバーの設置を行うことで、CIESFの活動をご理解していただける企業様を増やし、寄付を集めてくださいました。



カンボジア国際教育支援基金(CIESF)の団体概要

団体名	一般財団法人 カンボジア国際教育支援基金(CIESF(シーセフ))
設立日	2008年12月8日
所在地	東京都港区南青山3-17-1 フロムファイブ302
	<p>理事長 : 大久保 秀夫(株式会社フォーバル 代表取締役会長兼社長)</p> <p>副理事長: 篠原 勝弘(前カンボジア特命全権大使/カンボジアオフィス代表)</p> <p>理事 : 潮木 守一(桜美林大学大学院 国際学研究科 招聘教授/名古屋大学名誉教授)</p> <p>秋尾 晃正(一般財団法人 民際センター 理事長)</p> <p>金森 正臣(カンボジアオフィス副代表/愛知教育大学名誉教授)</p> <p>戸田 陽子(日本事務局長)</p> <p>名誉顧問: ラトナ サリ デヴィ スカルノ(NPO法人 アースエイド ソサエティ 理事長)</p> <p>顧問: 谷口 智治(NPO法人 全国経営者団体連合会 理事長)</p> <p>評議員: 秦 信行(学校法人 國學院大學 理事/國學院大學 経済学部 教授)</p> <p>東出 浩教(早稲田大学ビジネススクール 早稲田大学大学院商業研究科 教授)</p> <p>今野 由梨(ダイヤル・サービス株式会社 代表取締役社長)</p> <p>田岡 佳子(NPO法人 ランチェスター協会 理事長)</p> <p>寺田 朗子(特定非営利活動法人 国境なき子どもたち 会長)</p> <p>監事: 本塚 雄一郎(MMG税理士法人 公認会計士 税理士 代表社員)</p>
理念	<ul style="list-style-type: none"> ・真の愛情と情熱をもった世界レベルの教育者の育成 ・利他の心をもった国際的な高度人材の育成
支援内容	<p>1)高等教育機関整備事業 2)高等教育内容拡充事業 3)高等教育普及事業</p> <p>4)中等教育機関整備事業 5)中等教育内容拡充事業 6)中等教育普及事業</p> <p>7)教員養成支援事業 8)調査研究事業 9)研究生、奨学生等の招聘事業</p>
URL	http://www.ciesf.org